

小中学校4校が制作

折り鶴再び 平和つなぐ



一人一人の平和への祈りを込めた折り鶴
(写真左から)綿貫ひまりさん・小林蘭加さん・
横山市長・石井日瑠里さん・平田桜子さん

平和を祈り、被爆地・広島に寄せられた折り鶴の再生紙を使って再び折り鶴を届けようと、市内小中学校4校は「折り鶴再生・循環プロジェクト」に取り組み、平和な世界の実現を願いました。

川田小・多那小・沼田南中・薄根中が参加し、生徒会などが中心になって取り組みました。一人一人が鶴を折ることを通して平和について考えることができ、「今を生きる私たちはもう戦争はしない」と誓いました。

同プロジェクトは、戦後75年目の平和啓発事業として市が実施し、学校に呼び掛けました。3月24日に市役所で贈呈式が行われ、各校の代表者が横山市長に合計3千羽の鶴を届けました。横山市長は「皆さんの気持ちを受け取りました。広島から全世界へとつなげ、次世代へ循環していくことを願っています」と感謝。

折り鶴はテラス沼田4階（秘書課前）で展示後、広島の平和記念公園へ送ります。

問合せ 総務課行政係 ☎内線4012

平和を願う輪つなぎたい

平田桜子さん -薄根中2年-

1人5枚を目安に学校全体で取り組み、一人一人が折り鶴に思いを込めて平和と戦争について考えることができました。

10月に修学旅行で広島を訪れる予定です。現地で直に学びを深め、平和を願う輪をつなげていきたいです。



力合わせて達成感 広島訪れたい

石井日瑠里さん -沼田南中3年-

平和について考えることがほとんどなく、プロジェクトをきっかけにしっかり向き合おうと前向きに取り組みました。皆が丁寧に折ってくれる姿を見ると嬉しく、完成すると達成感で喜び合いました。

広島に関心を持つようになったので、いつか平和記念公園を訪れたいです。



皆で折り鶴 卒業前の記念に

綿貫ひまりさん -川田小6年-

6年生が中心となり、全体で1,000羽を折りました。皆で心を合わせて折れたことが嬉しく、小学校卒業前の良い記念になりました。

戦争のことは社会科の授業で学んでいましたが、プロジェクトをきっかけに平和を考えようという意識を持てるようになりました。



皆で挑戦できて嬉しい

小林蘭加さん -多那小6年-

社会科の授業で広島原爆投下について学んでいました。平和を祈りながら折り鶴に思いを込めて「戦争をしてはいけない」と改めて心に刻むことができました。

6年生が150羽折り、全校で500羽になりました。皆で折れたことが嬉しかったです。

